

II 審議の対象とした4番組

委員会が審議の対象とした4番組は、次のとおりである。ここでは、公示日の前後を問わず、立候補予定者及び立候補者の用語を統一して「候補」又は「候補者」という。なお、候補者は公的な存在であること、さらに対象番組の内容をわかりやすく説明すること等を考慮し、各番組に登場する候補者名は実名で表記している。また、当該の番組をそれぞれ記述の順番に応じて、「本件放送1」「本件放送2」……等と呼ぶ。

1 本件放送1：長野朝日放送『a b nステーション』のなかの「参院選比例区 狙うは“個人票”」（6月22日放送、7分20秒）

『a b nステーション』は、平日の午後6時17分から55分までの枠で放送されている長野県を対象区域とする報道番組である。審議の対象となった「参院選比例区 狙うは“個人票”」は、参院選の公示2日前の6月22日に放送された。

本件放送1は、長野県関係の候補者4人の政治活動を紹介しながら、参議院の比例代表選挙の仕組みを説明するもので、以下のような内容であった。

まず、キャスターが「比例区の選挙に県関係では4人が名乗りをあげています。個人票獲得にしのぎを削るそのわけを取材しました」と述べて、番組が始まる。

自民党の小坂憲次候補が「もう一度国会で信州のために、そして日本の国のために働かせてください。お願いいたします」と街頭で訴える。同候補は衆議院議員を6期20年務めたが、昨年の総選挙で落選し、初めて参院選比例代表に挑むことが説明された上で、同候補の「参議院の比例区というのは雲をつかむような話ですね」というインタビューが入る。

次に、参議院の選挙は都道府県単位の選挙区と全国単位の比例代表に分かれていること、比例代表は候補者名でも政党名でも投票できる点が特徴であることなど制度の概略が説明され、小坂候補を応援する国会議員が「この長野県で票が出なければ、小坂憲次さんの当選はありません」と街頭演説を行う。

その後、比例代表の非拘束名簿式の投票の仕組みが、図とナレーションによって説明される。小坂候補の「政党が順位を決めるのではない。有権者がお決めになるので、私ども候補者の名前を書いて欲しい」とのインタビューに続いて、タレント候補が乱立するのも比例代表の特性であるという説明がなされる。

民主党の柳沢光美候補に移り、流通関係労組の組織内候補だという説明の後に、組織で支持を訴える挨拶の映像や、同候補の政治信条が紹介される。参院選に向けた活動は全国に及び、県内入りできるのは数日だけと説明したあと、同候補が「別名“残酷区”というんでしょ。体力勝負です」などとインタビューに答える。

続いて共産党の森正明候補は、「北陸信越を中心に回っていきたい」「参議院の比

例選挙の場合は“死に票”が出ないということでは一番良い制度かなと思っています」とインタビューに答え、街頭演説で医療福祉に関する政策を訴える。

比例代表の候補者は全国を飛び回るが、個人名の票の獲得を求めて重視するのは地元、県内であるというナレーションに続いて、小坂候補が「全国に同じような組織を作ることは不可能です。私の出身の1区、そして長野県。これが私の選挙の基盤です」と述べる。

比例代表には、11の政党から165人が立候補を予定しているというナレーションの後、小坂候補の「今の政治は見えてもらえない」と訴える街頭演説が紹介される。

政党名、候補者名のいずれで投票するのかについて、有権者の声ははさまれる。前年の資料映像を使いながら、県内関係者に民主党の津田弥太郎候補もいるが、機械金属系の労組内候補で、公示後県内に入るのはわずか1日であると紹介される。

最後に、全国を相手にそれぞれの戦略で選挙を戦うことになるというナレーションで、番組が締めくくられる。

2 本件放送2：信越放送『SBCニュースワイド』のなかの「選択の夏再び～比例代表の選挙戦」（7月8日放送、4分30秒）

『SBCニュースワイド』は、平日の午後6時15分から55分までの枠で放送されている長野県を対象区域とする報道番組である。審議の対象となった「選択の夏再び～比例代表の選挙戦」は、投票日3日前の7月8日に放送された。

本件放送2は、長野県関係の候補者4人の選挙戦を通じて、参議院の比例代表制の仕組みを説明するものだった。

まず、キャスターが、あらかじめ政党内で候補者の順位が決まっている衆議院と異なり、参議院の比例代表はいわば横一列であり、長野県関係の4人の候補者の訴えにも違いが出ていると指摘して、番組が始まる。

民主党の柳沢光美候補が、街頭演説で「平仮名でもカタカナでも『やなぎさわ』5文字を書いていただきたい」と個人名での投票を訴える。

個人名での投票を訴える理由は選挙制度にあるとのナレーションが入り、図を利用しながら比例代表の非拘束名簿式の仕組みが説明される。

民主党の津田弥太郎候補の選挙活動に移り、応援の地元選出衆議院議員による「茅野市在住は津田弥太郎です。比例の選挙ではぜひ名前を書いてください」との街頭演説が入る。

続いて自民党の小坂憲次候補が街頭で個人名の投票を訴えたり、陣営が同候補の名前を書いたウチワを配ったりする選挙戦のもようなどが取り上げられる。「ライバルは同じ党の比例候補者ということになってしまう」というインタビューも紹介さ

れる。

共産党の森正明候補の街頭演説に移り、政党名での投票を呼びかける様子が紹介された後、「党内の順位争いではなく国民に対する責任からいって、一番わかりやすい日本共産党と書いてもらうのが大事」という党県委員会幹部のインタビューが紹介される。

最後に、県区とは違う全国という土俵で候補者の熾烈な争いが続いている、というナレーションで番組が締めくくられる。

3 本件放送3：TBS『関口宏の東京フレンドパークⅡ』のなかの「3択SAMURAI」（6月28日放送、42秒）

『関口宏の東京フレンドパークⅡ』は、TBSが毎週月曜日午後7時から7時55分まで放送しているバラエティー番組で、複数のゲストがチームを組んでアトラクションに挑戦する。

審議の対象となった「3択SAMURAI」は、公示後の6月28日に放送された。これは、クイズに挑戦するゲストが待さながらに刀を持ち、3つの選択肢から不正解と思われる2つを刀で斬って正解を選ぶという演出になっている。このなかで「蓮舫議員の所属政党を残せ」という問題が出題された。

当日のゲストは4人であったが、指名されたゲストAは、3択のなかから「自民党」と「民主党」を刀で斬り、「社民党」を残して不正解となった。司会者やゲストらが口ぐちに間違いを揶揄すると、ゲストAは「蓮舫さんは知ってます。仕分けの人？」と応じて「民主党」と発言し、司会者の1人が「そうだよ、民主党を残せばよかったの」と話した。すると、他のゲストらがピンクレディーの「UFO」の振り付けで踊りながら、「UFO」という歌詞を「蓮舫」に変えて歌って、会場の笑いを誘った。

4 本件放送4：BSジャパン『絶景に感動！思わず一句 初夏ぶらり旅』のなかの「初夏の大自然満喫！人気の日光～尾瀬を訪ねて」（7月11日放送、12分11秒）

この番組は、タレント2人がリポーターとなり、島根、山形、日光などの行楽地を巡って自慢の一句を詠むという趣向である。2007年6月30日にテレビ東京が放送した1時間54分のオリジナル番組が、1時間25分に短縮されて、参院選の投票日当日である7月11日の午後3時54分から放送された。

審議の対象となった「初夏の大自然満喫！人気の日光～尾瀬を訪ねて」は、山口県選挙区に民主党から立候補した俳優の原田大二郎候補が出演し、もう1人のタレントとともに、日光周辺を散策した後、老舗旅館の夕食や露天風呂を楽しみながら

尾瀬沼で旅を終えるという構成になっていた。